

中国の一人娘世代と母親世代のライフコースの比較研究①  
—計画経済期における二元的な戸籍体制が都市女性と農村女性に与えた影響—

陳 予茜 (流通経済大学)

### 1. 背景と目的

中国の計画経済期(1953年～1992年)は、国家が経済活動を統括し、生産や資源配分を管理する時代であった。当時、政府にとっていかにして社会秩序を維持し、人口の特定や管理、さらに人口の流動を抑制することができたかが重要な課題であった(姚 2004)。その結果、二元的な戸籍制度が採用された。この制度は単なる戸籍管理にとどまらず、食糧配給、職業申請、社会福祉など多岐にわたる制度と連動し、一つの体制を形成していた(俞 2002)。その体制のもとで、都市戸籍者と農村戸籍者の間には、大きな権利と機会の格差が生み出された。

これまでの先行研究では、戸籍制度の枠組みやそれによる都市と農村の格差について詳細に論じられてきたが、戸籍制度が女性のキャリア形成にどのような影響を及ぼしたのかについては十分に検討されてこなかった。また、戸籍制度以外に影響を与える要因が存在するのか、それらの影響が世代を超えて継承されているのかについても、明らかにされていない。

そこで本報告では、上述した問題意識を踏まえ、計画経済期における女性のキャリアに焦点を当て、二元的な戸籍体制が女性の就労に与えた影響を具体的に分析する。また、戸籍制度以外の女性の就労に関わる要因の存在と、それらが世代間に継承されているのかについても検討を行う。これにより、中国の計画経済期における女性の就労と時代、世代との関係性に新たな視座を提供することを目指す。

### 2. 対象と方法

本報告では、2024年8月に中国浙江省紹興市で実施したインタビュー調査のデータを用いる。調査対象者は、計画経済期に就職し、一人娘を持つ有配偶女性8名である。そのうち都市戸籍が6名、農村戸籍が2名(うち1名は1990年代以降、戸籍制度の緩和により都市戸籍に変更)であり、インタビュー時間は一人当たり70分～140分であった。

### 3. 結果

結果を述べると、まず中国の計画経済期における二元的な戸籍体制が女性のキャリアに与えた影響が、重層的かつ交差的であることを明らかにした。都市戸籍者と農村戸籍者の間には、就労機会とアクセス可能な職業の質と量に明確な格差が存在していた。ただし、このような格差は単に都市と農村という二項対立的な構図によるものではなく、ジェンダー、学歴、親の社会地位や資源といった複数の要因と交差しながら、世代を超えて存続されてきた。もっとも、調査対象者である女性たちは、こうした制度の制約を受動的に受け入れていたわけではない。農村戸籍の女性は、自身のキャリアや家族の将来のために都市限定の資源への接近を試み、都市戸籍の女性は公務員試験に挑戦するなど、それぞれが主体的にキャリアを築こうとする姿が見られた。さらに、戸籍上では都市と農村が明確に区別されていたが、空間的には必ずしも明瞭ではなかった。都市と農村の間には緩衝地帯が存在しており、その存在は都市と農村、都市戸籍者と農村戸籍者の対立を緩和し、潜在化させる機能を果たしていた。

### <参考文献>

俞徳鵬, 2002, 『城乡社会：从隔离走向开放—中国戸籍制度与戸籍法研究』 山東人民出版社

姚秀蘭, 2004, 『戸籍, 身分与社会変遷：中国戸籍法律史研究』 法律出版社

(キーワード：戸籍制度、女性のキャリア、世代間関係)

謝辞：本研究はJSPS 科研費 JP24K05294 の助成を受けたものです。